

# 会 議 録

第 1 8 回定例会

開会 令和4年1月28日

## 教育委員会会議録

1 開 会 令和4年1月28日 午後1時30分

2 閉 会 令和4年1月28日 午後3時15分

### 3 教育委員会出席者

教育長	榊 浩一
委員	菊池 健次
委員	島 隆寛
委員	三木 千佳子
委員	河野 暁
委員	岡本 弘子

### 4 教育長及び委員以外の出席者

副 教 育 長	臼杵 一浩
教 育 次 長	藤本 和史
教 育 次 長	藤田 完
コンプライアンス推進室長	中村 ゆかり
教育創生課長	重田 英紀
教職員課長	今田 潤
グローバル・文化教育課長	向井 佳子
特別支援教育課長	田中 清章
体育学校安全課副課長	川口 雅代
教育政策課長	高崎 美穂
教育政策課副課長	高木 和久

[開 会]

教育長 定例会を開会する旨を告げる。

[会議録の承認]

教育長 配付されている会議録を承認して差し支えないかを各委員に諮る。

各委員 異議なし。

教育長 会議録を承認する旨を告げる。

[教育長報告]

副教育長 1 1 月定例県議会における質疑応答の概要について報告する。

〈質 疑〉

特になし。

[議 事]

教育長 議案第61号，議案第62号，協議事項1及び報告事項1を非公開として差し支えないかを各委員に諮る。

各委員 異議なし。

教育長 そのように取り計らうこととし，議事に入ることを告げる。

《報告事項3 特別支援学級運営充実検討委員会の設置について》

教育長 報告を求める。

特別支援教育課長 内容等を報告する。

〈質 疑〉

島委員：平成19年から令和3年にかけて児童生徒数が2.7倍となっており，支援や配慮が必要な方が増加していることから，先生方も大変だと思うが，対応される先生の割合も2.7倍となっているのか。また，支援や配慮が必要な児童への接し方についても教えていただきたい。

特別支援教育課長：特別支援学級の児童生徒数が2.7倍になるだけでなく，多種多様な障がいのお子さんが在籍している。多岐にわたる障がい特性

に応じた支援をしていく現場の教員は、非常に大変な状況であると考えている。委員から教員数について質問いただいたが、現在特別支援学級を担当する教員は700名程度おり、その中で初めて特別支援学級を担当する教員は150名前後となっている。そうした教員に対する支援や研修が、今後重要になってくると考えている。

岡本委員：学校の中でも特別支援学級数が増えており、小規模な学校でも3学級あったり、多い学校では6～7学級あったりして、特別支援学級への担任配置は、学校において苦慮するところであり、重要なところでもある。また、特別支援学級のみならず、通常の学級にも、最近、発達障がいのあるお子さんが在籍していることがあるので、特別支援教育の専門性を有した担任が少ないということは、非常に問題であると思っている。先日、大学でも教員養成課程において、もう少し専門性が高まるような教育をしていかなければならないという話も出た。学校においても、研修の機会を設けていただき、さらに理解を図る必要があると思う。

菊池委員：障がい者の方々は、以前から多くの先生方に様々なサポートをしていただき、我々が思っている以上の支援を受けていると思うが、先般起こった事件は非常に衝撃が大きかった。事件をきっかけとして、もう一度多様な方面から考えていただく機会となればよいと思うので、是非とも、この検討委員会がよい方向で結果を残し、皆さんに展開できるような流れを作っていただきたい。

特別支援教育課長：今回の事件は特殊性もあるけれども、これをきっかけとして、特別支援学級の運営や教員の専門性、また、先ほど御指摘のありました運営体制や大学との連携等についても、本検討委員会の中で検討を進めていきたい。

河野委員：岡本委員もお話しのとおおり、研修を行っていくことが必要である。やはり、特別支援学級の担任だけではなく、学校全体としての研修の場が大事で、必要になってくると考える。今は現場の先生方も大変な時期とは承知しているが、非常に重要なことだと思うので、機会を設けていただき「共通的な理解」をよろしく願います。以前、中学校の特別支援学級の講師をさせていただいた。学級には、途中で倒れる、寝そべる、動かないといった行動をする子がいて、どのように対応したらよいのか分からなかった経験がある。担任から意見を聞きながら教えてもらったが、個人差や様々な障がい特性があるので、本当に先生方は大変であると感じた。

特別支援教育課長：学校全体のことと、特別支援学級のこととの両方について、検討

委員会の中で検討を進めていきたいと考えている。

教育長：ちょうど20年ほど前のことになるが、私も特別支援学校と小学校との交流で、3年間、小学校の特別支援学級の担任をしたことがある。特別支援学級の担任として子供たちに指導していたが、通常の学級にいる特別な支援を必要とする子供のことで困った時には、通常の学級の担任が特別支援学級に来て対応や指導の方法等について相談をしたり、放課後には通常の学級の子供たちが特別支援学級に来て一緒に宿題をしたりするといったこともあった。特別な支援が必要な子供のこと、また、指導や支援に関する知識を特別支援学級が蓄えて、それを発信できる「小学校の中の特別支援教育のシンクタンク」の役割を担い始めた頃だったと思う。困った時に相談できる、困った時に助けてくれるところが学校に1つあるのが本来の姿だと思うので、そうした姿になるようにしっかり検討委員会の委員の方々の意見を伺いながら、進めていきたいと考えている。今後、検討委員会の概要について報告する際には、教育委員の皆様の御意見もお聞かせいただきたい。御協力をお願いする。

#### 《報告事項4 令和3年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果について》

教育長 報告を求める。

体育学校安全課副課長 内容等を報告する。

#### 〈質 疑〉

島委員：企業等では結果に対する分析を行う際に、他県の状況等も比較し分析を行う。徳島県と環境・習慣等が似ていながらも、体力調査の結果が上位の県における取組を分析し、徳島県の取組に生かせるようにしてはどうか。

体育学校安全課副課長：本県と人口、インフラ等が似ている他県の取組状況を分析するとともに、効果的な取組があれば、本県の状況に合わせて今後の取組に活用できるようにしていきたい。

三木委員：体力の結果は低下しているが、「運動が好き」「体育の授業が楽しい」の割合が全国上位となっているのは素晴らしい。以前は、冬休みなどの長期休業には、体力づくりに取り組む宿題が学校から出ていたと思うが、今は子供が通う学校では無くなっているようだ。コロナ禍でそのような宿題が無くなってきていると考えられるが、体力づくりのきっかけを与える必要があるのではないか。体力づくりについては、学校からの働きかけがあると家庭でも取り組みやすいのではないか。

体育学校安全課副課長：家庭での取組については、市町村教育委員会を通じて各学校に周知し、取組を行っていただくようにしていきたい。また、小学校体育連盟と連携して体力向上に向けた取組改善を行ったり、外部団体と協力して体力アップ動画を作成し家庭で活用できるようにしたりするなど、取組をさらに進めていきたい。

菊池委員：小学校、中学校ともに体力は低下しているが、その中で、中学校は全国平均との差は縮まっているが、小学校は全国との差が広がっている。このままでは、小学校の体力差が全国とさらに広がってしまうことも考えられる。小学校では他の学年でも調査しているか。また、全国と比較できるものはあるか。

事務局職員：全種目については、県内の小学1年生から6年生を対象に抽出で調査しているが、悉皆調査はしていない。一部の種目については、4年生から6年生に悉皆で調査をお願いしている。悉皆の全国調査は5年生のみであるため、全国と比較できるのは5年生だけとなっている。

岡本委員：今の学校現場では、体育の授業中でもマスクをしていることがあるため、活動内容が制限されてしまうのは理解できる。取組内容にもあったように体育授業の充実が必要である。また、放課後の運動・外遊びも大切であり、放課後に運動できる場があれば良いと思う。

体育学校安全課副課長：子供の外遊び等、授業以外での運動時間の確保は重要であり、学校での取組や保護者への働きかけを含めて、体力向上への取組を進めていきたい。

《報告事項2 第6回「新時代における徳島県公立高等学校の在り方検討会議」の概要について》

教育長 報告を求める。

教育創生課長 内容等を報告する。

〈質 疑〉

菊池委員：つい最近、香川県が全公立高校の県外枠を設けて、県外からの募集を行うニュースがあった。県教育委員会として、どのように捉えているか。

教育創生課長：当該ニュースについては承知している。県教育委員会としては、引き続き、高校の特色化・魅力化を推進し生徒の県外流出防止に努めたい。

菊池委員：徳島県も、生徒を集める様々な施策に取り組んでいただきたい。

教育創生課長：本県でも県外枠を設けている。池田高校、那賀高校、海部高校では、上限も撤廃している。県外から本県に来る生徒も増えている状況であり、一時期に比べると、県外に流出する生徒と入ってくる生徒の差は小さい。

島委員：報告書案にも「ビジョンが明確で組織内に浸透している企業が活躍している」との文言があるが、ミッションやビジョンも掲げるだけでは効果がなく、どのように具現化し、生かすかが大事である。また、時代の変化に応じて見直していく必要もある。

教育創生課長：スクール・ミッション、スクール・ポリシーは学校の大きな方針である。細かな修正等はあると考えているが、毎年見直すものではなく、今後、徳島教育大綱や教育振興計画の改定時期に合わせて見直していくものと認識している。また、スクール・ポリシーについては、学校評価に組み込み、学校運営協議会の場で外部の方々の視点も入れながら取組状況等を評価していくこととしている。

教育長：今後、各校で導入されたコミュニティ・スクールのもと、地域の方や専門家に入っただき、ポリシーに係る取組等の評価をしていただく。

岡本委員：高校は、地元を離れるのか、一度離れてまた戻ってくるのかを考える大事な時期である。徳島には素晴らしい文化財等がある。地域社会や企業と連携して、学んだ内容が自分たちの将来にどう役立っていくか、高校生が実際に感じられる学校教育が展開されるとともに、それが徳島の未来を作っていくものであれば良いと思う。

教育創生課長：生徒が自分の将来を考えていけるような取組を進めていきたい。

[非公開]

《協議事項1 令和4年度16か月予算案について》

《議案第61号 徳島県学校職員定数条例の一部を改正する条例について》

《議案第62号 令和3年度徳島県藍青賞の受賞者について》

《報告事項1 公益通報の受付・処理状況について（令和3年10月から12月分）》

《協議事項 2 職員の処分について》（追加）

《報告事項 5 服務上の措置の実施状況について》（追加）

[閉 会]

教育長 本日の議事が全て終了したので閉会する旨を告げる。

閉 会 午後 3 時 1 5 分

徳島県教育委員会

教育長

委員

委員

委員

委員

委員

書記長

書記